令和5年度　気仙沼市立鹿折小学校

「海と生きる探究活動」実施状況及び学校関係者評価

1 「海と生きる探究活動」実施状況

	計画	実施	備考
第３学年	５０	５０	
第４学年	５０	５８	探究的に学ぶ時間を拡充 （角星酒造見学、森里海研究所の方からの講話等）
第５学年	６０	７４	探究的に学ぶ時間を拡充 （環境保全のために自分たちでできることの実践）
第６学年	６１	６９	探究的に学ぶ時間を拡充 （気仙沼のまちづくりについて自分たちでできることを提案）

※令和6年度も，余剰時数を確保し，柔軟に取り扱えるようにする。

2 「海と生きる探究活動」学校関係者評価

（1）令和４年度との比較

①児童（上段：令和４年度、下段：令和５年度）※校内研究意識調査第２回目結果より

質問項目	年度	とても	まあまあ	あまり	まったく
鹿折や気仙沼について、進んで調べようとしていますか。	R4年度	26%	52%	18%	4%
	R5年度	34%	47%	16%	4%

質問項目	年度	とても	まあまあ	あまり	まったく
学校の学習で、知りたいことや調べたいことを見つけることはできますか。	R4年度	28%	54%	13%	5%
	R5年度	45%	42%	11%	2%

質問項目	年度	とても	まあまあ	あまり	まったく
学校の学習で、知りたいことや調べたいことを自分の言葉で表すことができますか。	R4年度	26%	46%	23%	5%
	R5年度	42%	44%	10%	3%

質問項目	年度	とても	まあまあ	あまり	まったく
課題を解決するために「何を」「どのように」調べるかについて、自分で計画を立てることができますか。（4～6年）	R4年度	22%	59%	17%	2%
	R5年度	36%	43%	17%	4%

質問項目	年度	とても	まあまあ	あまり	まったく
調べるときに本や図鑑を使って調べていますか。	R4年度	34%	40%	21%	5%
	R5年度	31%	40%	20%	9%

質問項目	年度	とても	まあまあ	あまり	まったく
調べるときにパフレットなどの地域で配られているものを使って調べていますか。	R4年度	21%	37%	27%	15%
	R5年度	24%	41%	24%	12%

質問項目	年度	とても	まあまあ	あまり	まったく
調べるときにタブレットやパソコンを使って調べていますか。	R4年度	55%	31%	8%	6%
	R5年度	47%	32%	11%	10%

質問項目	年度	とても	まあまあ	あまり	まったく
調べるときに鹿折や気仙沼のまちに出かけて調べていますか。	R4年度	17%	43%	28%	12%
	R5年度	23%	38%	28%	12%

質問項目	年度	とても	まあまあ	あまり	まったく
地域の人に会った話したり、聞いたりすることは大切だと思いますか。	R4年度	48%	38%	11%	2%
	R5年度	53%	39%	7%	1%

質問項目	年度	とても	まあまあ	あまり	まったく
調べるときに家や地域の人に聞いて調べていますか。	R4年度	19%	42%	28%	10%
	R5年度	33%	39%	17%	11%

質問項目	年度	とても	まあまあ	あまり	まったく
発表の資料をつくるときに算数の学習を生かしていますか。(3～6年)	R4年度	16%	57%	24%	3%
	R5年度	33%	52%	12%	4%

質問項目	年度	とても	まあまあ	あまり	まったく
海は全ての生き物の生命につながっていることを具体的に説明できますか。(5、6年)	R4年度	10%	57%	30%	3%
	R5年度	25%	58%	17%	0%

質問項目	年度	とても	まあまあ	あまり	まったく
海が気仙沼に引き起こした災害とその復興の歴史が分かるようになりましたか。(5、6年)	R4年度	33%	52%	15%	0%
	R5年度	48%	48%	4%	0%

質問項目	年度	とても	まあまあ	あまり	まったく
鹿折や気仙沼をすてきなまちにしたいと思うようになりましたか。	R4年度	64%	29%	6%	1%
	R5年度	43%	40%	13%	3%

質問項目	年度	とても	まあまあ	あまり	まったく
鹿折や気仙沼の人、もの、ことについて、さらに調べたいと思いますか。	R4年度	30%	53%	14%	3%
	R5年度	47%	40%	12%	2%

＜考察＞

・昨年度に比べ、気仙沼や気仙沼の人について「とても」調べたいと回答した児童の割合が増加している。しかし、一方で気仙沼をよりよい街にしていきたいと思う児童の割合は昨年度よりも減少している。

・課題設定について「自分で調べたいことを見つける」「課題を自分の言葉で表す」「課題解決の計画を立てる」ことについて、昨年度よりも肯定的な回答割合が増加した。

・課題の調べ方について「本や図鑑」「パソコンやタブレット」を使用すると回答した割合が昨年度よりも減少し、「パンフレットで調べる」「地域の人に聞く」「街で調べる」と回答した割合が増加している。

・課題解決の際に算数科の学習を生かしていると回答した割合が昨年度よりも増加している。(他教科については昨年度と同程度か微増であった)

・海洋リテラシーの項目「海の生命を知り、生命のつながりを知る」「海が地域にもたらした災害と復興の歴史を知る」について、肯定的な回答割合が増加した。

⇒探究的な学習の進め方を理解して取り組む児童が増加した。また地域を中心に調べ、まとめる児童も増加している。一方で気仙沼をよりよくしていきたいと考える児童が減少したことから、地域に対する愛情や誇りがよりもてるように指導していくことが必要である。
海洋リテラシーについて肯定的な回答割合が増加した項目もあったが、「気仙沼の海を大切に思うようになった」「気仙沼の産業が他地域や他国とつながり支え合っていることを知る」等の項目では昨年度と同等か微減している。海洋リテラシーについて、教師が日々の授業の中で意識して指導していくことがより求められる。

②保護者　※学校評価アンケート第２回目結果より

質問項目	年度	とても	まあまあ	あまり	まったく	分からない
自分で調べ考え、学習している	R4年度	16%	44%	29%	10%	1%
	R5年度	19%	44%	25%	10%	2%

質問項目	年度	とても	まあまあ	あまり	まったく	分からない
調べる活動を通して、気仙沼の理解を深めている	R4年度	21%	50%	16%	6%	8%
	R5年度	31%	43%	21%	2%	3%

③地域の方　※学校評価アンケート第２回目結果より

質問項目	年度	とても	まあまあ	あまり	まったく	分からない
自分で調べ考え、学習している	R4年度	20%	60%	0%	0%	20%
	R5年度	38%	50%	0%	0%	12%

質問項目	年度	とても	まあまあ	あまり	まったく	分からない
調べる活動を通して、気仙沼の理解を深めている	R4年度	80%	20%	0%	0%	0%
	R5年度	87%	13%	0%	0%	0%

＜考察＞
・保護者、地域の方ともに肯定的な回答が昨年度を上回る結果であった。
⇒令和５年度、12月実施の「海洋フォーラム in 鹿折」を学習参観日として多くの保護者に見ていただいた。また、学校 HP を活用し、海洋教育の取組を紹介してきた。そのような取組が肯定的な回答へとつながったものと思われる。

④教員　※学校経営反省（12月実施）より

質問項目	年度	大きく上回る	上回る	概ね達している	下回る	大きく下回る
学習のねらいを明確にし、地域の学習素材や人材を生かしながら、児童が「問い」をもち、探究的な学びを深められるよう工夫している。	R4年度	0%	27%	60%	13%	0%
	R5年度	0%	53%	40%	7%	0%

質問項目	年度	大きく上回る	上回る	概ね達している	下回る	大きく下回る
海と生きる探究活動で培う資質・能力を理解し、海洋リテラシーfor気仙沼の育成を図っている。	R4年度	7%	27%	53%	13%	0%
	R5年度	7%	40%	53%	0%	0%

質問項目	年度	大きく上回る	上回る	概ね達している	下回る	大きく下回る
SDGsとの関連をおさえ、本校の教育活動のねらいを捉えて教育活動を実践している。	R4年度	7%	7%	73%	13%	0%
	R5年度	13%	25%	56%	7%	0%

＜考察＞
・全ての項目で昨年度の結果を上回る結果となった。
⇒今年度本校の実践を発表する場があり、それらの発表を教員間で聞き合うことで、海洋教育や ESD に関する実践意欲が高まり、このような結果になったと思われる。また、海洋教育の実践研究の場である校内研究について、研究で取り組むべきことが明確になり、話し合いが活性化したことも要因として考えられる。

（2）海洋教育に関するアンケート結果から

① あなたは、気仙沼市が進めている海洋教育について、学校が取り組んでいることを知っていますか。

＜児童＞

児童	とても	まあまあ	あまり	全く
全体	47%	34%	13%	7%
低学年	41%	31%	15%	13%
中学年	35%	39%	20%	6%
高学年	65%	31%	4%	0%

＜保護者＞

R5	とても	まあまあ	あまり	全く
全体	31%	55%	14%	0%
低学年	15%	65%	21%	0%
中学年	11%	47%	42%	0%
高学年	42%	51%	7%	0%

R4	とても	まあまあ	あまり	全く
全体	31%	58%	11%	0%
低学年	27%	54%	19%	0%
中学年	30%	64%	6%	0%
高学年	36%	56%	8%	0%

＜考察＞
・全体として、8割以上の児童、保護者が理解していると回答している。特に、高学年に上がるに連れて理解していると回答している児童、保護者の割合が高くなる。
・昨年度と比べ、中学年の保護者の海洋教育について、理解している割合が減少している。
⇒中学年の「海と生きる探究活動」で扱う内容が海ではないことから、海洋教育にどのようにつながっているかを伝える必要がある。

② あなたは、学校で取り組んでいる ESD（持続可能な開発のための教育）の取組について知っていますか。

＜児童＞

児童	とても	まあまあ	あまり	全く
全体	30%	35%	23%	13%
低学年	26%	34%	16%	24%
中学年	19%	33%	37%	11%
高学年	46%	37%	17%	0%

＜保護者＞

R5	とても	まあまあ	あまり	全く
全体	11%	49%	40%	0%
低学年	6%	33%	60%	0%
中学年	11%	47%	42%	0%
高学年	16%	67%	18%	0%

R4	とても	まあまあ	あまり	全く
全体	14%	59%	26%	1%
低学年	19%	50%	27%	4%
中学年	16%	53%	31%	0%
高学年	10%	72%	18%	0%

＜考察＞
・学年が上がるにつれて、児童、保護者の認知度が上がるが、全体として海洋教育に比べ、認知度が低い。
⇒特に保護者の認知度が昨年度に比べ減少していることから、具体的な教育活動を伝えていく必要がある。

③ あなたは、学校で行っている地域の学習（生活科、海と生きる探究活動）について知っていますか。

＜保護者＞

R5	とても	まあまあ	あまり	全く
全体	16%	63%	21%	1%
低学年	8%	50%	40%	2%
中学年	24%	66%	11%	0%
高学年	18%	73%	9%	0%

R4	とても	まあまあ	あまり	全く
全体	27%	58%	15%	0%
低学年	19%	58%	23%	0%
中学年	33%	58%	9%	0%
高学年	28%	59%	13%	0%

＜考察＞
全体として8割を超える認知度であり、学年が上がるに連れて高い割合である。全体として、昨年度に比べ認知度は低くなっていることから、今後も地域とふれあう学習や取組を紹介することを行っていくことが重要である。

④ あなたは、海洋教育が学力向上や地域の理解につながっていると思いますか。

＜児童＞

児童	とても	まあまあ	あまり	全く
全体	48%	40%	9%	2%
低学年	50%	37%	13%	0%
中学年	41%	48%	4%	7%
高学年	54%	37%	9%	0%

＜保護者＞

R5	とても	まあまあ	あまり	全く	分からない
全体	22%	62%	8%	0%	8%
低学年	17%	58%	6%	0%	19%
中学年	21%	71%	8%	0%	0%
高学年	29%	58%	9%	0%	4%

R4	とても	まあまあ	あまり	全く	分からない
全体	28%	57%	6%	0%	9%
低学年	35%	46%	15%	0%	4%
中学年	24%	67%	3%	0%	6%
高学年	28%	56%	3%	0%	13%

＜教員＞

教員	とても	まあまあ	あまり	全く
全体	45%	55%	0%	0%

＜考察＞
児童、保護者ともに肯定的な回答が8割を超えている。これまでの継続的な取組と算数よりも国語の学力調査結果が高いことなどから、一定の学力向上につながっていると感じているようである。

⑤ あなたは、ESD の取組が学力向上や地域の理解につながっていると思いますか。

＜児童＞

児童	とても	まあまあ	あまり	全く
全体	46%	40%	11%	3%
低学年	50%	35%	13%	1%
中学年	37%	43%	13%	7%
高学年	50%	44%	6%	0%

<保護者>

R5	とても	まあまあ	あまり	全く	分からない
全体	21%	56%	11%	1%	11%
低学年	17%	54%	8%	0%	21%
中学年	21%	61%	13%	0%	5%
高学年	24%	56%	13%	2%	4%

R4	とても	まあまあ	あまり	全く	分からない
全体	21%	65%	5%	0%	9%
低学年	27%	58%	8%	0%	8%
中学年	18%	70%	6%	0%	6%
高学年	21%	67%	3%	0%	10%

<教員>

教員	とても	まあまあ	あまり	全く
全体	27%	73%	0%	0%

<考察>

・海洋教育同様、8割を超える児童が学力向上、地域の理解につながっていると感じている。一方で保護者の肯定的な回答割合は海洋教育よりも低い。

⇒具体の取組が見えにくいことから、具体的な取組を保護者伝えることも必要である。また、教科のテストの結果に表れやすい認知能力の他に、本校で育てたいと考える「地域への思いや願い」「社会づくりへの貢献意識」「課題解決への意欲や実践」などの非認知能力についても保護者に伝えていくことも必要である。

⑥ 海洋リテラシー（活用する能力）について、身に付いてると思うもの（いくつでもかません）。

<児童>

リテラシー項目	全体	低学年	中学年	高学年
気仙沼の海に触れ、実際に海を体験する	66%	75%	54%	69%
海の生き物の生命がつながっていることを知る	64%	69%	52%	69%
海が生命を育んでいること、海と生命が直接的・間接的につながっていることを知る	51%	57%	44%	50%
海は「食」を通じて私たちの生命を維持していることを知る	55%	65%	50%	48%
海の生き物は消費・経済活動を支えていることを理解する	41%	46%	31%	46%
地域の地理的特徴に対して、海がもたらした影響を理解する	35%	32%	31%	43%
外洋や海流の仕組みを理解する	31%	28%	22%	43%
地球温暖化と海水の関係を理解する	49%	40%	41%	69%
地域の漁業や養殖業の歴史や文化、技術を尊重する	38%	35%	33%	44%
海が地域にもたらした災害と復興の歴史を知る	44%	38%	33%	61%
海といきるまちづくりについて知る	52%	46%	46%	65%

<保護者>

R5	全体	低学年	中学年	高学年
気仙沼の海に触れ、実際に海を体験する	68%	79%	68%	56%
海の生き物の生命がつながっていることを知る	51%	38%	55%	62%
海が生命を育んでいること、海と生命が直接的・間接的につながっていることを知る	34%	19%	37%	49%
海は「食」を通じて私たちの生命を維持していることを知る	60%	50%	58%	73%
海の生き物は消費・経済活動を支えていることを理解する	23%	17%	18%	33%
地域の地理的特徴に対して、海がもたらした影響を理解する	12%	4%	18%	16%
外洋や海流の仕組みを理解する	10%	2%	3%	24%
地球温暖化と海水の関係を理解する	34%	6%	26%	71%
地域の漁業や養殖業の歴史や文化、技術を尊重する	21%	10%	21%	31%
海が地域にもたらした災害と復興の歴史を知る	41%	35%	45%	44%
海といきるまちづくりについて知る	39%	35%	32%	49%

R4	全体	低学年	中学年	高学年
気仙沼の海に触れ、実際に海を体験する	68%	88%	64%	59%
海の生き物の生命がつながっていることを知る	56%	54%	58%	54%
海が生命を育んでいること、海と生命が直接的・間接的につながっていることを知る	36%	19%	42%	44%
海は「食」を通じて私たちの生命を維持していることを知る	60%	46%	67%	64%
海の生き物は消費・経済活動を支えていることを理解する	25%	8%	15%	46%
地域の地理的特徴に対して、海がもたらした影響を理解する	20%	8%	18%	31%
外洋や海流の仕組みを理解する	13%	4%	3%	28%
地球温暖化と海水の関係を理解する	36%	12%	33%	56%
地域の漁業や養殖業の歴史や文化、技術を尊重する	28%	4%	30%	44%
海が地域にもたらした災害と復興の歴史を知る	36%	38%	27%	44%
海といきるまちづくりについて知る	34%	19%	36%	44%

＜教員＞

教員	全体
気仙沼の海に触れ、実際に海を体験する	82%
海の生き物の生命がつながっていることを知る	27%
海が生命を育んでいること、海と生命が直接的・間接的につながっていることを知る	27%
海は「食」を通じて私たちの生命を維持していることを知る	73%
海の生き物は消費・経済活動を支えていることを理解する	45%
地域の地理的特徴に対して、海がもたらした影響を理解する	0%
外洋や海流の仕組みを理解する	45%
地球温暖化と海水の関係を理解する	55%
地域の漁業や養殖業の歴史や文化、技術を尊重する	36%
海が地域にもたらした災害と復興の歴史を知る	64%
海といきるまちづくりについて知る	55%

＜結果について＞
・児童も保護者も学年が上がるに連れて身に付いていると回答する割合が高くなっている。
・全学年で身に付いている割合が高い項目は児童、保護者ともに「海を体験する」「生命のつながり」「食を通じた生命維持」である。教員の感じている「災害と復興の歴史を知る」項目とは差異が見られる。

⑦海洋リテラシーについて、身に付けさせたいと思うもの（いくつでもかません）。

＜児童＞

児童	全体	低学年	中学年	高学年
気仙沼の海に触れ、実際に海を体験する	58%	78%	48%	43%
海の生き物の生命がつながっていることを知る	40%	56%	41%	19%
海が生命を育んでいること、海と生命が直接的・間接的につながっていることを知る	48%	60%	39%	43%
海は「食」を通じて私たちの生命を維持していることを知る	42%	51%	33%	39%
海の生き物は消費・経済活動を支えていることを理解する	36%	46%	28%	33%
地域の地理的特徴に対して、海がもたらした影響を理解する	33%	37%	31%	30%
外洋や海流の仕組みを理解する	36%	37%	30%	43%
地球温暖化と海水の関係を理解する	35%	37%	37%	31%
地域の漁業や養殖業の歴史や文化、技術を尊重する	39%	35%	39%	44%
海が地域にもたらした災害と復興の歴史を知る	35%	41%	31%	30%
海といきるまちづくりについて知る	40%	43%	43%	35%

＜保護者＞

R5	全体	低学年	中学年	高学年
気仙沼の海に触れ、実際に海を体験する	56%	65%	50%	51%
海の生き物の生命がつながっていることを知る	41%	42%	50%	33%
海が生命を育んでいること、海と生命が直接的・間接的につながっていることを知る	46%	52%	42%	42%
海は「食」を通じて私たちの生命を維持していることを知る	53%	63%	47%	47%
海の生き物は消費・経済活動を支えていることを理解する	36%	23%	37%	49%
地域の地理的特徴に対して、海がもたらした影響を理解する	24%	15%	26%	31%
外洋や海流の仕組みを理解する	18%	10%	24%	22%
地球温暖化と海水の関係を理解する	48%	50%	45%	49%
地域の漁業や養殖業の歴史や文化、技術を尊重する	37%	35%	34%	42%
海が地域にもたらした災害と復興の歴史を知る	50%	58%	45%	47%
海といきるまちづくりについて知る	44%	50%	42%	40%

R4	全体	低学年	中学年	高学年
気仙沼の海に触れ、実際に海を体験する	57%	65%	42%	62%
海の生き物の生命がつながっていることを知る	39%	50%	30%	41%
海が生命を育んでいること、海と生命が直接的・間接的につながっていることを知る	49%	54%	39%	56%
海は「食」を通じて私たちの生命を維持していることを知る	52%	58%	45%	54%
海の生き物は消費・経済活動を支えていることを理解する	40%	50%	33%	41%
地域の地理的特徴に対して、海がもたらした影響を理解する	38%	31%	39%	44%
外洋や海流の仕組みを理解する	28%	15%	27%	38%
地球温暖化と海水の関係を理解する	46%	38%	48%	51%
地域の漁業や養殖業の歴史や文化、技術を尊重する	33%	27%	33%	38%
海が地域にもたらした災害と復興の歴史を知る	48%	58%	42%	49%
海といきるまちづくりについて知る	49%	50%	48%	51%

＜教員＞

教員	全体
気仙沼の海に触れ、実際に海を体験する	36%
海の生き物の生命がつながっていることを知る	64%
海が生命を育んでいること、海と生命が直接的・間接的につながっていることを知る	82%
海は「食」を通じて私たちの生命を維持していることを知る	45%
海の生き物は消費・経済活動を支えていることを理解する	45%
地域の地理的特徴に対して、海がもたらした影響を理解する	45%
外洋や海流の仕組みを理解する	18%
地球温暖化と海水の関係を理解する	64%
地域の漁業や養殖業の歴史や文化、技術を尊重する	55%
海が地域にもたらした災害と復興の歴史を知る	73%
海といきるまちづくりについて知る	91%

＜考察＞

・身に付けさせたい割合が高いリテラシーとして、児童、保護者ともに「海を体験する」「食を通じた生命維持」が挙げられている。

⇒今後も体験活動を通した学習や給食の時間に地元の食材を紹介するなど行っていくことが重要である。また、保護者、教員では「災害と復興の歴史を知る」の割合が高いことから、総合を通して身に付けさせていくことが重要である。